

小学校

平成 11 年 度

# 教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

平成11年度

### 教育研究員名簿

低学年分科会	新江中練足武小田	宿東野馬立野井無	四第若豊東第前柳	谷三宮玉加三原沢	第四島小平三原沢	小小小小小小小	★川山武山山小泉小	上下藤下本林泉峯	照恭真和喜美佳俊	代子粧代子也子子	1 2 2 2 2 1 1 2	年 年 年 年 年 年 年 年
--------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	-----------	----------	----------	----------	--------------------------------------	--------------------------------------

中学年分科会	世練江府日国多羽	田戸分摩村	谷馬川中野寺摩村	松大第府程第南羽	原第葛中久二貝村	小小小小小小小	☆薄束石石後藤内佐	井原崎川藤本藤藤	智俊麻和欣直幸治	美子里広子子子子	4 4 3 4 3 3 4 4	年 年 年 年 年 年 年 年
--------	----------	-------	----------	----------	----------	---------	-----------	----------	----------	----------	--------------------------------------	--------------------------------------

高学年分科会	文品大杉北板足葛江町	京川田並橋立飾川田	関大田桃滝上栗新第南	口間園井野板上原三つく	台窪調第一第二北宿松	町布第一第二北江野	◎小塚河池中河羽藤	齋小原田村野生森	藤杉椋田原田村野生森	真美立美和裕幸美惠美	由知子和美子夫幸美惠	美子子子子子子子	6 5 6 5 6 6 5 5 5 5	年 年 年 年 年 年 年 年 年 年
--------	------------	-----------	------------	-------------	------------	-----------	-----------	----------	------------	------------	------------	----------	--	--

◎ 全体世話人 ○ 全体副世話人 ☆ 分科会世話人 ★ 分科会副世話人

担当 教育庁指導部初等教育指導課指導主事 清水朋子

# 目 次

I 全体研究主題及び基本的な考え方	
1 全体研究主題設定の理由	2
2 全体研究主題に対する基本的な考え方	2
II 研究の概要	
1 研究の内容と方法	3
(1) 研究の内容	3
(2) 研究の方法	4
2 研究の構想	6
3 伝え合う力について	6
4 伝え合う力を育てるために	7
III 各分科会の実践	
○ 低学年分科会	9
第1学年 ともだち 大はっけん	
第2学年 楽しく絵かきゲームをしよう	
実践の成果と課題	
○ 中学年分科会	14
第3学年 「教えて会」をしよう	
第4学年 「東京都調査報告会」をしよう	
実践の成果と課題	
○ 高学年分科会	19
第5学年 伝えよう 私たちの学校を	
第6学年 自然を見つめて ～人と自然とのかかわりを考えよう～	
実践の成果と課題	
IV 研究の成果と課題	24

## 〈要 約〉

国語科においては心豊かに表現し理解するために、言語能力を高めていくこととともに児童の思いや願いを大切に、自ら学習しようとする意欲を高め、児童が主体的に取り組めるような学習を創造していくことが求められている。

本研究では、言葉を大切にして進んで伝え合う力を培うために、相手や目的を意識し、基礎・基本を大切に話し合う学習を通して、互いの思いや考えを共感すると共に、自分の考えを深め、学んだことを他の学習や生活に生かそうとする児童の育成を目指したものである。

# I 全体研究主題及び基本的な考え方

全体研究主題 言葉を大切にし、進んで伝え合う子を育てる指導の工夫  
——話すこと・聞くことの学習活動を通して——

## 1 研究主題設定の理由

ゆとりの中で自ら学び、自ら考える教育力や豊かな人間性などの「生きる力」の育成を基本とし、新しい学習指導要領に基づいた教育が行われようとしている。本年度は、現行の学習指導要領とともに、来年度より移行期間となる新学習指導要領の趣旨も踏まえて、研究を深めていくこととした。

さて、今日、知識偏重の学力観、いじめや不登校の問題、学校外での社会体験の不足など、豊かな人間性をはぐくむべき時期の教育に様々な課題が生じている。また、21世紀に向けて我が国の社会は国際化・情報化・科学技術の発展・高齢化・少子化等の様々な面で大きな変化を迎えている。こうした時代にあって、これから子どもたちに必要となるものは、「自分で課題を見つけ、自ら学び主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また自らを律しつつ、他人と共に協調し、人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性である」といえよう。それでは、豊かな人間性をはぐくむために、国語科としては、このような「生きる力」を身につけるための学習をどのように進めればよいのだろうか。

今回改訂された学習指導要領では、新たに「伝え合う力を高める」ことを目標に位置付けている。これは、豊かな相互理解を目指す社会の要請に応え、一人一人の思いや考えを言葉で伝え合うことの重要性を改めて示したといえるだろう。1学期に実施した子どもたちの意識調査をみると、話す相手の人数が増えるにつれて「抵抗感が増して話すのが嫌い。」と答える児童が多くなるという結果が得られた。また、「話し方がわからない」「相手が最後まで聞いてくれない」「からかわれる」等の理由から、言葉で伝え合う活動について苦手意識をもっている児童が多く見られた。

そこで国語科としては、今まで以上に意識して、言葉を通して豊かな感性や言語感覚を磨き、主体的な話し手や聞き手を育てていかななくてはならないと考えている。また、言葉で伝え合うことを通して、自分と違う他者の存在を認め合い、互いに尊重し合う態度を身につけ、豊かな人間関係を作り上げていけるような言葉の使い手を育てることも目指していきたい。

このような流れを受けて、今年度の研究では、「話すこと・聞くこと」の活動を通して、子どもたちに、生きる力へつながる実践的な国語の力を育てていきたいと考え、本研究主題を設定した。

## 2 研究主題に対する基本的な考え方

私たちは、「言葉を大切にし、進んで伝え合う望ましい児童の姿」を次のようにとらえた。

- 言葉に親しみ、適切に表現する子
- 自分の思いや考えを進んで伝え合う子
- 互いのよさに気づき、考えを深める子

このような児童像を目指すために、次のような2つの基本的な考え方に立ち、学習指導の改善を図ることにした。

(1) 「言葉を大切にすること」について以下のようにとらえた。

- 友達とかかわり合う中で、新しい言葉に触れ、言葉に親しむ。
- 相手や目的を意識し、伝えたい内容にふさわしい言葉を選ぶ。
- 言葉にこめられた思いや意図を考える。
- 互いのやりとりから表出された言葉に関心を持ち、自分の表現に生かす。

このような言葉に向きあった学習活動を重ねていくことで、より適切な言語表現ができるようになり、活発な言語活動が展開されていくことを目指している。

(2) 「進んで伝え合う」ことについて

「進んで伝え合う児童の姿」については、各分科会で以下のようにとらえた。

・低「楽しく伝え合う」	・中「適切に伝え合う」	・高「効果的に伝え合う」
-------------	-------------	--------------

「伝え合う」については、次のようにとらえた。

- 「話したい」「聞きたい」という意欲を大切にすること。
- 相手や目的を意識し、自分の言葉で思いや考えを伝えようとする。
- 話し手・聞き手の双方が言葉のやりとりを工夫すること。
- 相手の思いや考えに関心をもって聞き、意図を理解すること。
- 相手の立場に立ち共感すること。
- 言葉や様子から相手の気持ちを分かろうとする。
- 互いの考えを比較し、見方や考え方を広げ、深める。

このような伝え合う活動を通して、互いの見方や考えを比較しながら自分の考えを深めることができる。また、友達と分かり合えたという実感は、次の学習への意欲を引き出し、「友達から新しい考えを得た」「自分の考えを理解してくれた」「考えが深まった」など互いに尊重し合う態度を養うものと考えられる。

## II 研究の概要

### 1 研究の内容と方法

(1) 研究の内容

研究主題にせまるために、次のような視点にそって研究を進めた。

- ① 児童が、自分自身の興味や関心を生かしてめあてを持ち、相手意識・目的意識をもって話すこと・聞くことの学習に取り組むことができるように単元構成を工夫すること。
- ② 児童が言葉を適切に選んで話し、共感的に聞き合い、互いのよさを認め合うことができるような伝え合う学習活動を工夫すること。
- ③ 児童が学習の目的に向けて力を発揮し、成果をとらえることによって満足感を味わうことができるように、支援及び指導と評価を工夫すること。

(2) 研究の方法

全 体

全体研究主題

○言葉を大切にし、  
進んで伝え合う子を育てる指導の工夫  
—話すこと・聞くことの  
学習活動を通して—

目指す児童像

○言葉に親しみ適切に表現する子  
○自分の思いや考えを  
進んで伝え合う子  
○互いのよさに気づき、  
考えを深める子

研究仮説

○相手や目的を意識し、話し合う活動  
を通して、互いの思いや考えを共感  
できる学習活動を意図的に設定する  
と、進んで伝え合う子が育つ。

研究主題に迫る手だて

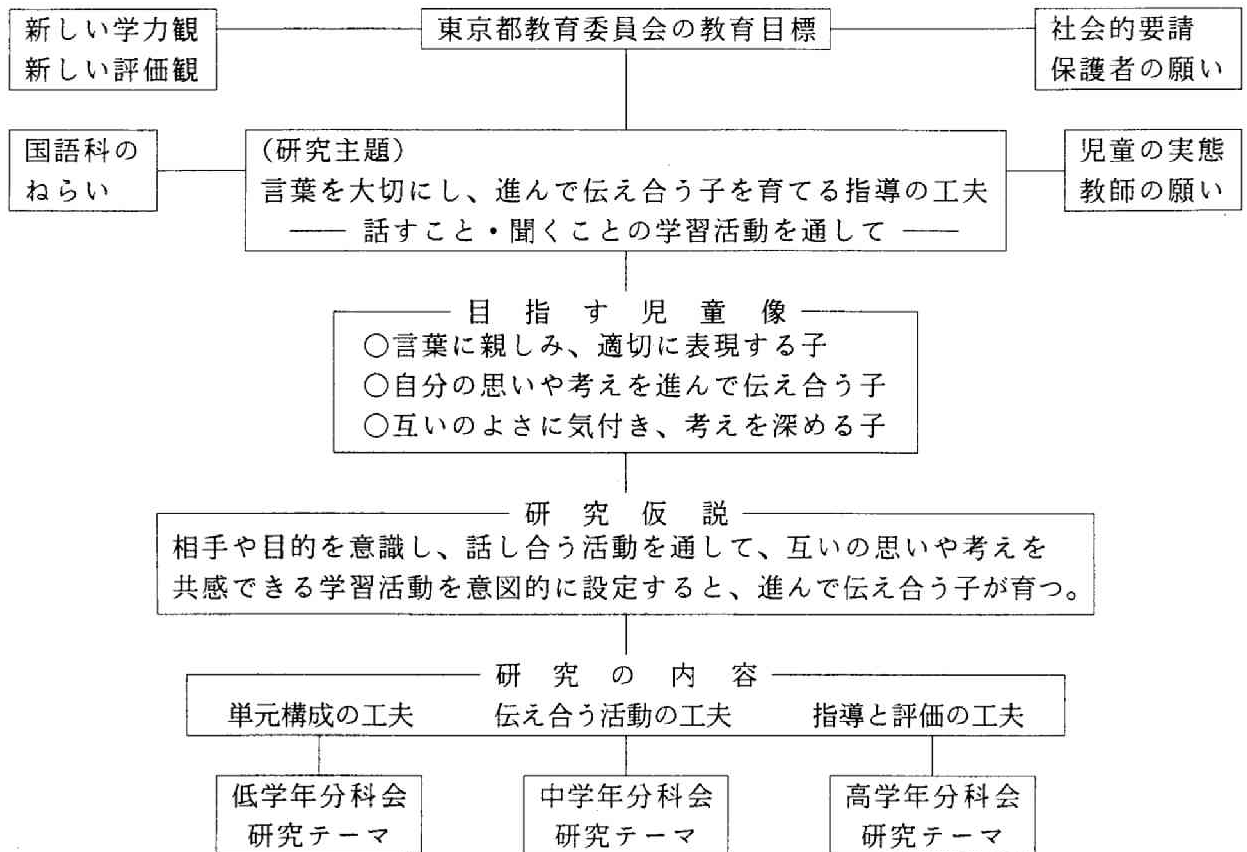
- ①単元構成の工夫
- ・楽しく取り組める学習材の開発
  - ・意欲的に取り組める学習材の開発
  - ・学習意欲が持続できる単元構成や活動計画
- ②伝え合う活動の工夫
- ・人とかかわり合う場の設定
  - ・話し合いの基礎・基本を培う工夫  
(モデルビデオの活用など)
  - ・学習形態の工夫
  - ・対話を基盤とした学習形態の工夫
  - ・個に応じた支援
  - ・ワークシート
  - ・話し手、聞き手の活動の手だてと  
なるメモの活用
- ③指導・評価の工夫
- ・自己評価
  - ・相互評価
  - ・評価カード

低学年分科会

研究主題	○友達とかかわり合いながら、 言葉に親しみを持ち、 楽しく伝え合う学習活動の工夫
目指す児童像	○相手を意識しながら、 話したり聞いたりする子 ○自分の思いや考えが伝わるように話す子 ○話すことや聞くことによるこびのもてる子
研究仮説	○友達や身近な人とかかわり合う場を多く設定し、一人一人が「話してよかった」「聞いてよかった」と思える学習活動を工夫すれば、言葉に親しみをもって、伝え合う楽しさを味わえる子が育つ。
基本的な考え	<p>〈言葉に親しみをもつ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いや考えに合う言葉をさがして話す。</li> <li>・言葉から相手の思いや考えを分かろうとする。</li> <li>・友達とかかわり合うことで、いろいろな言葉を知り、使おうとする。</li> </ul> <p>〈楽しく伝え合う〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いや考えを相手に分かるように話す。</li> <li>・相手の話の内容や話し方に興味をもって聞く。</li> <li>・相手の話の内容を受け、話題にそって話し合う。</li> <li>・「また話してみたい」「また聞いてみたい」という意欲をもつ。</li> </ul>

中 学 年 分 科 会	高 学 年 分 科 会
<p>○言葉を生かして 互いの思いや考えを適切に伝え合う 学習活動の工夫</p>	<p>○言葉の働きに着目し、 互いの思いや意図を効果的に伝え合う 学習活動の工夫</p>
<p>○言葉に立ち止まり、深く考える子 ○自分の思いや考えを相手や目的に応じて適切に伝え合う子 ○相手の言葉を受けて、友達や自分のよさに気づき考えを広げる子</p>	<p>○言葉の働きに着目し、適切な言葉で話す子 ○自分の思いや意図を 自信をもって伝え合う子 ○互い考えのよさや違いを認め合い、 ものの見方や考え方を広げ深める子</p>
<p>○相手や目的に応じ、話の中心を意識して受けて返す学習活動をくり返し取り入れれば互いの思いや考えを理解し合い、言葉を生かして適切に伝え合う子が育つ。</p>	<p>○目的や場に応じて話したり聞いたりする力を身につけ、「どうしても話し合いたい」という気持ちを引き出すような学習活動を工夫すれば、互いの思いや意図を効果的に伝え合う子が育つ。</p>
<p>〈言葉を生かす〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話の内容にふさわしい言葉を見つけ、選ぶ。</li> <li>・学んだ言葉を話し合いや考えに生かす。</li> <li>・言葉のもつ意味を多方面から考える。</li> </ul>	<p>〈言葉の働きに着目する〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や目的に応じて、思いや意図にふさわしい言葉を選んで話す。</li> <li>・場面や状況、語気、語調等を考えて言葉に込められた思いや意図を受け止める。</li> <li>・新たに出会った言葉に興味をもち、自分の表現に生かそうとする。</li> <li>・言葉は情報を伝えるだけでなく、人間の感情と大きくかかわって人間関係を結ぶ働きをもっていることに気付く。</li> </ul>
<p>〈適切に伝え合う〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の一番伝えたいことを筋道を立てて話す。</li> <li>・場に応じた言葉で話す。</li> <li>・話の中心に気をつけて聞く。</li> <li>・相手の立場や気持ちを考えながら聞く。</li> <li>・互いの考えの相違点や共通点を考えながら話し合う。</li> <li>・互いの考えを認め合い、自分の意見や感想をもつ。</li> </ul>	<p>〈効果的に伝え合う〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意図が伝わるよう組立を工夫して話す。</li> <li>・話す相手や目的、場にふさわしい言葉遣いで話す。</li> <li>・相手の思いや考えに関心をもって聞き、意図を理解する。</li> <li>・互いの考えを比較し、見方や考えを広げ深める。</li> <li>・互いの考えを尊重し、新たな見方や考え方に気付く。</li> </ul>

## 2 研究の構想



## 3 伝え合う力について

「伝え合う力」とは、人間と人間の関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して適切に表現したり、正確に理解したりする力である。

(新学習指導要領解説 国語編より)

このような定義を受けて、本研究は、「話すこと・聞くこと」の音声言語による表現活動を通して、伝え合う力を育てることに主題をおいて進めることにした。

伝え合うとは、同じ目的をもった者同士が、互いの考えを知りたい、自分の考えを確かめたい、広げたい、深めたいという思いをもって、話したり聞いたり話し合ったりする行為であると考えられる。相手を意識し、尊重する姿勢が根底にあることが不可欠であり、話すことや聞くこと・話し合うことの音声表現にかかわる技能とともに、このような互いの関係も育てていくことが必要である。

また、音声言語は、相手に応じて瞬時に対応する必要があることや、記録として残すことが難しい側面をもっていること等の特徴がある。互いに理解し通じ合うために、一層、相手や場面・状況を意識することが重要になる。話し手は、適切に自分の考えを表現するために言葉を選び、聞き手にわかりやすいように話す速さや音量にも気を配る。聞き手は、話し手が発した言葉から事実や意見を正確に理解し、思いや願いを受け止める。この時には、言葉による伝え合いを補うために、表情や態度、資料等も有効に働くことができる。

聞くこと・話すことの学習を通して、これらのことに児童が気づき、相手意識や目的意識をもって互いを尊重した「伝え合う力」が育つことを目指したい。



#### 4 伝え合う力を育てるために

##### 【話すこと】

低 学 年	中 学 年	高 学 年
<p>○相手を意識する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手に応じて挨拶の言葉を使い分ける。</li> <li>相手を見ながら、ゆっくり最後まで話す。</li> <li>発音に注意して、はっきりと話す。</li> <li>主述のはっきりした話し方をする。</li> <li>絵や物を使ったり、動作をつけたりしながら話す。</li> <li>興味のあることや知りたいことについて質問する。</li> <li>尋ねられたことに答える。</li> <li>聞き逃したことを尋ねる。</li> </ul> <p>○順序を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>順序を表す言葉を使う。 (はじめに、つぎに、など)</li> <li>自分の体験したことについて、順序に気をつけて話す。</li> <li>どんな話をか、はじめに言ってから話す。</li> <li>「いったれとなにをしたか」「どのようにしたか」「どう思ったか」に気をつけて話す。</li> <li>簡単なメモを使って話す。</li> </ul>	<p>○相手や目的を意識する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の言いたいことをはっきりさせて話す。</li> <li>大事なところをゆっくり話したり、繰り返して話したりする。</li> <li>相手の話を受けて話す。</li> <li>いくつかのまとまりで話すかを考えて、事柄ごとに分けて話す。</li> <li>場に応じた適切な言葉遣い、音量、速さで話す。</li> </ul> <p>○筋道を立てて話す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の一番伝えたいことを考える。</li> <li>構成、順序、区切りを考えて話す。</li> <li>理由や根拠を付け加えながら話す。</li> <li>筋道に合った接続詞を選んで話す。(だから、そこで、など)</li> <li>言いたいことをメモしてから話す。</li> </ul>	<p>○目的や意図を意識する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>場の様子や時間を考えて、適切な内容を選んで話す。</li> <li>資料を提示したり、例えを用いたりして話す。</li> <li>丁寧な言葉、敬語、抑揚、易しい言葉での言い換えなどを工夫し、場にふさわしい言葉遣いで話す。</li> <li>声の大きさ、強弱、抑揚、速さ、繰り返しなどを工夫して話す。</li> </ul> <p>○考えや思いを的確に話す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>話の組み立てを工夫する。</li> <li>事実、意見、感想を意識して話す。</li> <li>自分の考えの根拠となる事柄を明らかにして話す。</li> <li>結論や山場の位置づけを考えて話す。</li> <li>要旨を意識し、事柄を観点ごとに整理して話す。</li> <li>必要な事柄を正確に伝えるためにメモを活用して話す。</li> </ul>

##### 【聞くこと】

低 学 年	中 学 年	高 学 年
<p>○相手を意識する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手を見ながら話を最後まで聞く。</li> <li>反応しながら聞く。(うなずきなど)</li> <li>相手に親しみをもって聞く。</li> <li>聞いたことを動作に表す。</li> </ul> <p>○大事なことを落とさないように聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>復唱できるように聞く。</li> <li>話の荒筋をつかむ。</li> <li>どんな話が付くか考えながら聞く。</li> <li>簡単なメモをとりながら聞く。</li> <li>主語・述語をつかみながら聞く。</li> <li>順序を表す言葉や文末表現に気をつけながら聞く。</li> </ul>	<p>○相手や目的を意識する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の考えを自分の考えと照らし合わせて聞く。</li> <li>分からないところを聞き返す。 声聞き取れないとき 話の内容が分からないときなど</li> </ul> <p>○中心点を考えて聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>順序・要点・中心を考えながら聞く。</li> <li>要点や中心点をメモする。</li> <li>文末表現、文のまとまり、工夫している言葉遣いに気をつけて聞く。</li> </ul>	<p>○相手の意図をつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>はっきりした目的意識をもって聞く。</li> <li>相手の気持ちや立場を考えながら聞く。</li> <li>聞いた内容の中から、話の方向を見いだしながら聞く。</li> </ul> <p>○話の内容を正確に聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>聞く観点をはっきりさせる。 どんな組み立てをしているか 話し手の考えや意図は何か 話し手の伝えたいことは何か 自分の考えとの相違点など</li> <li>事実と感想、意見の関係を考えながら聞く。</li> <li>細かいことにも注意して聞く。 原因と結果との結び付き 指示語、接続語など</li> </ul>

【話し合うこと】

低 学 年	中 学 年	高 学 年
<p>○受けて返す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいづちを入れて、話したり聞いたりする。</li> <li>・相手に聞こえる声の大きさで話す。</li> </ul> <p>○相手を受け入れる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の顔を見ながら話し合う。</li> <li>・相手が話しやすいような態度で聞く。</li> <li>・一人で話さないように気をつける。</li> </ul> <p>○楽しく話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代わる代わる聞いたり話したりする。</li> <li>・話題に沿って話し合う。</li> <li>・尋ねられたことに答える。</li> <li>・よく聞いて質問する。</li> <li>・自分の経験した事をもとに話し合う。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>相手のよいところに気付く。</p>	<p>○受けて返す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の話を聞いて分からないところ、疑問に思ったところを尋ねる。</li> <li>・自分の意見と比べて、違う点を確認める。</li> </ul> <p>○相手を受け入れる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の反応を見ながら話す。</li> <li>・多くの人から意見が出るように気をつける。</li> <li>・相手の立場に共感する。</li> </ul> <p>○進んで話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自由に言える雰囲気を作る。</li> <li>・自分の考えをまとめてから、自分の言葉で話す。</li> <li>・話題に沿った話し合いをする。</li> <li>・立場を明らかにして話す。</li> <li>・相手の意見を補い合いながら話す。</li> <li>・役割を分担して話す。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>友達や自分のよいところに気付く。</p>	<p>○受けて返す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の意図を確認めるために尋ね返す。</li> <li>・相手の意図を理解し、感想や意見などを付け加える。</li> </ul> <p>○相手を受け入れる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの人から意見が出るよう配慮しながら話し合う。</li> <li>・お互いのよさを認めながら話し合う。</li> <li>・一人一人の見方や考え方の違いを認めながら話し合う。</li> </ul> <p>○計画的に話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもって話し合う。 視点や論点の明確化 内容の広さ・深さ</li> <li>・話がそれないように話し合う。</li> <li>・時間を考えながら、話をまとめる。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>話し合ったことをもとに自分の考えを整理し見つめなおす。 お互いのよいところに気付く。</p>

【言語活動例】

低 学 年	中 学 年	高 学 年
スピーチ（自分の体験したこと）	スピーチ（身近な話題で）	スピーチ（資料を使って）
リレースピーチ 言葉遊び	本の紹介 劇化・ペープサート・紙芝居	クイズ、なぞなぞ 音読・朗読 インタビュー
あいさつと返事 電話、糸電話 伝言ゲーム 鉛筆対談 絵かきゲーム、しりとりゲーム すきなものなあにゲーム わたしは誰でしょうゲーム ごっこ遊び 作り方を教えよう	道案内 電話 説明 報告会 小さな先生 （得意なものを教え合う） 五つのとびら （5つのヒントで答えをあてる）	語り 演説 研究発表会・報告会 ビデオレター パネルディスカッション 討論会 ポスターセッション ディベート テレビ番組作り

### Ⅲ 各分科会の実践

低学年分科会

研究主題

友達とかかわり合いながら、  
言葉に親しみを持ち、楽しく伝え合う学習活動の工夫

#### 第1学年

(1) 単元名      ともだち 大はっけん

——うちのひとに ともだちのことをしらせよう——

(2) 研究主題と単元とのかかわり

1年生は、まだ、よく遊ぶ友達、よく話す友達が限られてしまう傾向がある。そこで、本単元では、席替えしたばかりの新しい班の友達と互いのことを知り合うために、好きなものを教え合い、家族の人に紹介するようにした。この時、一方的に話すのではなく、ペアで相手の好きなものを当てるというクイズ形式にすることで、質問と応答のやりとりを自然に行えるようにした。そして、このような活動が「話すこと・聞くこと」の基本的な力を伸ばし、互いの思いを楽しく伝え合うことにつながると考えた。また、単に友達を知る活動にとどまらず、新しい友達のことを家の人に紹介しようという目標ももたせることで、家族の人とも伝え合う活動ができると考えた。

(3) 学習指導計画の概要（全5時間 本時4/5）



時	主な学習活動 ◇言葉 —— 伝え合い	教師の○指導 ●支援	◎評価
1	<p>すきなものカードをつくろう</p> <p>◇友達のことを詳しく知るために、知りたい項目を話し合う。 ・項目ごとに、自分のすきなものカードを作る。</p>	<p>●相手がもらってうれし いような内容にするよ う助言する。</p>	◎知りたい項目を 考えたか。
2	<p>すきなものなあにゲームのさくせんをたてよう</p> <p>◇T.Tと担任とのゲームの演示を見る。 ◇上手な尋ね方・答え方について知る。 ◇項目に合う質問を考える。</p>	<p>○具体例から、上手な尋 ね方・答え方をつかめ るようにする。</p>	◎尋ね方・答え方 をつかむことが できたか。
3 ・ 4	<p>すきなものなあにゲームをしよう</p> <p>◇上手な尋ね方・答え方を思い出す。 ◇ペアになって、すきなものなあにゲームをする。</p>	<p>○相手の話すことを、最 後まで聞いてから話す ようにさせる。 ●言葉を交わし合い、仲 良くゲームをするペア を認め、励ます。</p>	◎話を最後まで聞 いていたか。 ◎考えながら尋ね たりはっきり話 したりしたか。 ◎楽しくゲームに 参加したか。
5	<p>いえのひとにはなすれんしゅうをしよう</p> <p>・家の人に、班の友達を紹介する練習 をする。</p>	<p>○友達のことが、わかり やすく伝わるような話 し方を工夫させる。</p>	◎紹介する意欲が もてたか。

(4) 本時の学習 (4/5)

① 目標

- 互いに尋ねたり答えたりしながら、楽しくゲームをする。
- はっきりとした声で話したり、相手の話を最後までしっかり聞いたりする。

② 展開

前時までの既習学習										
・上手な話し方・聞き方を考え、となりの子とすきなものなあにゲームをしている。										
主な学習活動 ◇言葉 — 伝え合い	教師の ○指導 ●支援	◎評価								
1 本時の学習を知る。										
すきなものなあにゲームをしよう (2)										
2 ◇上手な尋ね方、答え方を思い出す。	○第2時で考えたことを押さえる。  <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>しつもんする人</p>  <p>あつた しつもん</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>ていねいなこばで</p> <div style="display: flex; justify-content: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">手 ぶり みぶり</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">は つきり と</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">あ いて を</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">さ い ご ま で</div> </div> </div> <div style="text-align: center;"> <p>こたえる人</p>  <p>しつもん あつた こたえ</p> </div> </div>	◎尋ね方、答え方のポイントが分かったか。								
3 ◇班の中で2人ずつに分かれ、ゲームをする。	○前時の上手なやりとりを紹介する。 ○相手の話を最後まで聞いてから、話すようにさせる。 ●うまく質問できない子は、ヒントカードを見てもよいことにする。 ●1回目のゲームで上手に進めていたペアを紹介したり、困ったことがなかったか聞いたりして2回目に生かせるようにする。	◎相手に聞こえる声で話したか。 ◎項目や質問に合わせて尋ねたり、答えたりしたか。								
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="font-size: small;">すきなものなあにゲームのやりかたをたてよつ。</p> <p style="font-size: x-small;">— どの話し方をしたら、よたりのまもあがうまうあつたか。</p> <p style="font-size: small;">くだもの</p> <p style="font-size: x-small;">(第2時で作成したヒントカードの例)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">あつた</td> <td style="padding: 2px;">あつた</td> <td style="padding: 2px;">あつた</td> <td style="padding: 2px;">あつた</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">しつもん</td> <td style="padding: 2px;">しつもん</td> <td style="padding: 2px;">しつもん</td> <td style="padding: 2px;">しつもん</td> </tr> </table> <p style="font-size: x-small;">(右側) どうぶつ</p> </div>			あつた	あつた	あつた	あつた	しつもん	しつもん	しつもん	しつもん
あつた	あつた	あつた	あつた							
しつもん	しつもん	しつもん	しつもん							
4 友達からもらったすきなものカードを見ながら、本時を振り返る。	○評価項目に○をつけながら、本時の尋ね方、答え方について、振り返らせる。	◎話を最後まで聞いていたか。								
次時以降の学習内容										
・班の友達のことを家の人にもうまく紹介できるように、となりの子と練習する。										

## 第2学年

(1) 単元名 楽しく絵かきゲームをしよう

教材名 じゅんじょを考えながら聞こう 「絵かきゲーム」

(2) 研究主題と単元とのかかわり

幼児期より「絵かき歌」に親しんできた児童にとって、自分たちで問題を作って出し合うことは、楽しく、意欲的に取り組める活動であると考えます。また、出題者は相手に正しく伝えるために適切な言葉を選び、絵にかき表す側は相手の意図を正しく聞き取らなければならないことから、「話すこと・聞くこと」の基本を身につけることができると考えた。

本単元では、個人で作った問題を4人のグループで出し合った後、そのグループを2つに分け、2人組で相談しながら絵かきゲーム大会に出題する問題を作った。そして、もう一つの2人組と問題を出し合って、確かめや意見交換ができるようにした。また、ゲーム大会は、学級を2つに分けて行った。このように、学習形態に変化をつけることによって、児童は多くの友達とかかわりをもち、楽しく伝え合うことができると考えた。

(3) 学習指導計画の概要（全5時間 本時4/5）

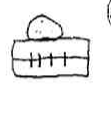

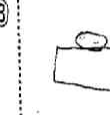
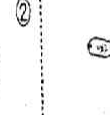
時	主な学習活動 ◇言葉 — 伝え合い	教師の ○指導 ●支援	◎評価
1	<p style="text-align: center;">絵かきゲームをしよう</p> <p>◇教師が出題した絵かきゲームをする。 ◇絵かきゲームをするための約束ごとを決める。</p>	<p>●約束ごとをもとに、しっかりと説明を聞くよう声をかける。</p>	◎内容を正しく聞き取り、楽しくゲームをしていたか。
2	<p style="text-align: center;">絵かきゲームの問題を作ろう</p> <p>◇友達に出題する問題を考える。 ◇出題練習をする。</p>	<p>○順序を表す言葉に気をつけながら、問題を作らせる。</p>	◎順序を表す言葉に気をつけながら問題を作っていたか。
3	<p style="text-align: center;">グループで絵かきゲームをしよう</p> <p>◇グループで絵かきゲームをし、感想を出し合う。</p>	<p>●キャッチボールカードを用意しておく。</p>	◎順序に気をつけて出題したか。
4	<p style="text-align: center;">友達と絵かきゲームの問題を作ろう</p> <p>◇2人組で相談して問題を考える。 ◇グループで出題練習をする。</p>	<p>●グループで意見交換ができるように、時間と場を設定する。</p>	◎2人組で相談しながら作っていたか。
5	<p style="text-align: center;">絵かきゲーム大会をしよう</p> <p>◇学級を2つに分け、絵かきゲーム大会をする。 ◇それぞれのグループで感想を出し合う。</p>	<p>●楽しくゲームができるよう、場を工夫する。（広い教室や隣の教室を使用する等） ●よいところを認め合えるようにする。</p>	◎問題を正しく聞き取り、絵でかき表していたか。

(4) 本時の学習 (4/5)

① 目標

- ・友達と相談しながら、楽しく問題作りに取り組もうとする。
- ・順序を表す言葉を使って、相手に分かりやすい問題を作る。

② 展開

前時までの既習学習		
・第2時に作った問題をグループで出し合い、絵かきゲームをしている。		
主な学習活動 ◇言葉 — 伝え合い	教師の ○指導 ●支援	◎評価
1 本時の学習のめあてをつかむ。	●本時の学習のめあてを確認する。	◎学習のめあてをつかんでいたか。
友達と絵かきゲームの問題を作ろう		
2 ◇2人組で相談して問題を作る。	○分かりやすい表現のために、次の点を押さえる。 ・順序を表す言葉 ・ゲームの約束ごと(形、大きさ、向き、場所の言い方)	◎順序を表す言葉(まず、つぎに、それから、さいごに)を使い、分かりやすい問題を作ろうとしていたか。
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;"> <p>かいてください。</p> <p>たてせんすを4本</p> <p>ながしかくの中</p> <p>よこせんすを1ほん</p> <p>それから、よこのながしかくの中</p> <p>よこのながしかくを</p> <p>つぎに、まるのなかの下に</p> <p>小やこなまるを</p> <p>まん中</p> </div> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">絵かきゲーム</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> <p>かいたものを見せ合ってみましょ。</p> <p>何ができましたか。</p> <p>かいたものを見せ合ってみましょ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> <p>のこぎらじ</p> <p>ケーキ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> <p>④</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> <p>③</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> <p>②</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> <p>①</p>  </div> </div>		
3 出題するための練習をする。	○相手に伝わるように話すための留意点を確認する。 ・速さ、間のととり方、役割分担	◎協力して問題を作っていたか。
4 4人グループ(2対2)で、問題を出し合い、それぞれの問題について意見を交換し合う。	●楽しくゲームができるように表現の仕方を工夫している組を認め、励ます。	◎友達の表現に感想がもてたか。
5 ◇問題を完成させ、読み方を練習しながら、次時への意欲をもつ。	●次のゲームへの意欲をもたせる。	◎分かりやすい表現で問題が完成したか。
次時以降の学習内容		
・絵かきゲーム大会をする。		



(5) 授業実践の成果と課題

成果

1年 「ともだち 大はっけん」

2年 「楽しく絵かきゲームをしよう」

単元構成の工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>○児童にとって「クラスの友達のことをもっと知ろう」という必要感や興味・関心のある話題だった。</li><li>○クイズ形式でどの児童も楽しく取り組める学習材だった。</li><li>○「紹介本にまとめ、家族に紹介しよう」という見通しをもって取り組めた。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○「話すこと・聞くこと」の基礎・基本を学習するのに適した単元だった。</li><li>○ゲーム的要素を取り入れることによって、児童の興味・関心を喚起することができた。</li><li>○「絵かきゲーム大会をしよう」というめあてをもち、活動意欲が持続できた。</li></ul>
伝え合う活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>○2人組の対話を中心としたゲームにしたことにより、尋ねる側・答える側両方の役割を自然に行うことができた。</li><li>○相手と向き合い、話すこと・聞くことの学習に楽しく、かつ集中して取り組むことができた。</li><li>○教師による演示や質問に困った時のヒントカードが有効だった。</li><li>○友達からもらったすきなもののカードを貼ってまとめた紹介本は、活動後の満足感につながった。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○友達とかかわり合う場を多く設定したことにより、いろいろな友達と話す機会が増えた。</li><li>○活動内容によって、グループの構成人数や学習形態に変化をもたせたので、話すこと・聞くことの活動がいろいろな形でできた。</li><li>○話すこと・聞くことの基礎・基本をおさえられるワークシートを用意したことにより、どの児童も容易に、楽しみながら学習を進めることができた。</li></ul>
指導・評価の工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>○自己評価は簡単な形式ではあったが、一人一人に話すこと・聞くことの意識づけをすることにつながり、ゲームの回数を重ねるごとに、話し方・聞き方を自分なりに考えながら活動している様子が見られた。</li><li>○授業を振り返る場面で、「話す・聞く」に戻って話し合えたことがよかった。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○キャッチボールカードを活用したことにより、互いに評価し合うとともに、友達とかかわり合いながら学習することの楽しさを味わうことができた。</li><li>○問題をグループ内で出し合い、かいた絵を見せ合うことにより、説明が分かりやすかったか、不十分なところはどこかなどが具体的に分かった。</li></ul>

課題

- ◎必然性があり、児童の発達段階や興味・関心に合った学習材の開発や単元構成の工夫。
- ◎児童の言語活動をさらに活性化させるようなかかわり合う場の設定や学習形態の工夫。
- ◎個に応じた支援や助言、適切な評価方法とそれを生かす工夫。

第3学年

(1) 単元名 「教えて会」をしよう

(2) 研究主題と単元とのかかわり

目的意識をもって一人一人が意欲的に取り組めるよう、できるようになりたいと考えていることについて「教えて会」でコツや練習方法などを聞こうという設定を考えた。学習材としては、「教えて会」の模範的な言語活動を取り入れたモデルビデオを作成し活用した。話すこと・聞くことへの意識を高め、基本的指導事項の徹底を図るためである。

聞き手の知りたいという願いに応じ話し手は説明の準備をする等、相手意識をもって学習に取り組ませるよう心がけた。また、聞き手が話し手から直接説明を受けた上で、更に詳しく知りたいことについて質問をすることで、より深い伝え合いができるものと考えた。

(3) 単元における主な学習活動（全6時間 本時4／6）

- ・第1次（3時間） ○2学期にできるようになりたいことを決め、教えて会の準備をしよう
- ・第2次（2時間） ○教えて会をしよう ～話し上手・聞き上手になろう～
- ・第3次（1時間） ○チャレンジ報告会をしよう  
～チャレンジしたことや話し方・聞き方について振り返ろう～

☆第1・2次で使用したモデルビデオについて☆

- ・所要時間 約1分30秒
- ・二人による対話形式
- ・設定

A：二重跳びができる。  
二重跳びのコツを  
Bさんに教える。  
B：二重跳びができない。  
できるようになりたい  
ので、縄跳びが得意な  
Aさんから教わりたい。

モデルビデオ	話し方・聞き方
<b>教えて会をしよう</b>	
《内容》	
A：B君が知りたがっていた「二重跳びのやり方」について教えてあげるわね。	
B：よろしくお願ひします。ほく、本当に二重跳びができないんだ。	
A：だいじょうぶよ。きっとできるようになるわ。二重跳びの達人になるためには、3つのポイントがあります。まず、できるだけ高く跳びます。次に、手首を速く回します。最後に、すぐにできなくても、あきらめないで練習を続けま。何か聞きたいことはありませんか。	(相手の話を受け入れている。) (話の中心は3つである。) (順序を表す言葉を使って、区切って話している。) (強く言っている。) (相手の話を聞き出そうとしている。)
B：手首を速く回すって言ってたけど、どうやって回すの？	(聞き返し、たずねている。)
A：ううんと、こうやって・跳んでみるね。(実際に跳んでみせる) 腰のところで細かく回すのよ。	(身振り、手振りを入れている。)
B：へえ、腰のところで回すのか。	
A：うん。	(あいづちをうっている。)
B：いつもは、もっと高いところで回していたなあ。むずかしいなあ。	(自分の経験を振り返って話している。)
A：でもね、わたしも最初はできなかったけど、繰り返し跳んでいるうちにできるようになったのよ。	(相手の気持ちを考え、励ましている。)
B：そうか。さっき言った"あきらめないで"っていう気持ちが大事なんだね。じゃあ頑張ってみよ。どうもありがとう。	(話の中心を押さえ確かめている。) (お礼を言っている。)
A：どういたしまして、頑張ってね。	
B：はい。	



(4) 本時の指導 (4 / 6)

- ① 目 標 ・話の中心を意識した話し方・聞き方を理解する。  
 ・話の中心が伝わるように話したり聞いたりする。

② 展 開

前時までの既習学習 ・教えて会のモデルビデオを参考に、自分が説明することについて考え、練習する。		
主な学習活動 ◇言葉 —— 伝え合い	教師の ○指導 ●支援	◎評 価
1 本時の学習のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">           教えて会をしよう            ～話し上手・聞き上手になろう～         </div>		◎学習のめあてを確認することができたか。
2 ◇教えて会のモデルビデオを見ながら、話し上手・聞き上手になるためのポイントを探す。	○話の中心を伝え合うには、話し方・聞き方にポイントがあることに気付かせる。 ●ビデオを再生したり、短冊を使用したりして確認しやすくする。	◎話し上手・聞き上手のポイントが分かったか。
3 見つけたポイントを発表し合う。	○話し上手と聞き上手に分けて、ポイントをまとめる。	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>☆話し上手のポイント☆</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話の中心を3つくらいにまとめる。</li> <li>・順序を表す言葉を使う。</li> <li>・短く区切って話す。</li> <li>*大事な言葉は語気を強めて言う。</li> <li>・身振り・手振りを入れる。</li> <li>・相手の気持ちを考える。</li> <li>(励ましの言葉を入れるなど)</li> </ul> </div> <div style="width: 45%;"> <p>☆聞き上手のポイント☆</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の話を受ける。</li> <li>・相手の話を引き出そうとする。</li> <li>*わからないことは聞き返し尋ねる。</li> <li>・自分の経験と照らし合わせる。</li> <li>*大切なことをおさえ、確かめる。</li> <li>・お礼など挨拶の言葉を言う。</li> </ul> <p>[*は、重点としたいポイント]</p> </div> </div>		
4 会における自分のめあてを決め、カードに書く。	●カードは1枚にする。 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;">           {表-説明メモ・めあて・サイン・自己評価}            {裏-教えて会 各自の話の内容}         </div>	
5 ◇教えて会をする。		◎ポイントを意識しながら話したり聞いたりしたか。
6 今日の学習を振り返り、カードに自己評価を書く。	●本時の教えて会の話し上手や聞き上手を具体的に示す。	
次時以降の学習内容 ・チャレンジ報告会をし、教えて会の後にチャレンジしたことや、話したり聞いたりすることについての自分の変容を報告し合う。		

## 第4学年

(1) 単元名 東京都調査報告会をするための準備をしよう。

(2) 研究主題と単元とのかかわり

言葉を用いて正しく思いを伝え合うためには、話の要点をまとめたり、筋道を立てて分かりやすく話したりすることが大切である。しかし児童の実態を見てみると、十分に身に付いているとは言えない。そこでインタビューを学習の中に取り入れ、話を正確に聞き取るためにメモを活用し、話の要点を分かりやすく相手に伝える学習単元を考えた。

インタビューをすることで、話し手、聞き手の立場を同時に体験することができる。意図がはっきりした質問をし、メモを取りながら聞くことで、互いの思いや考えを伝え合う学習ができると考え、本単元を設定した。

(3) 学習指導計画の概要（全4時間 本時4/4）

	主な学習活動 ◇言葉 —— 伝え合い	教師の ○指導 ●支援	◎評価
第一次 ①	1 インタビューの計画を立てる。 ・実際に聞くことは何かを決める。	●質問事項の取捨選択や質問の順序などを考えればよいことを話す。	◎インタビューの質問事項を決めることができたか。
第二次 ②	1 ◇想定練習を行い、メモの取り方やインタビューの仕方を練習する。	○インタビューをするときには相手に聞きたいことをはっきり伝えることを押さえる。	◎聞きたいことをはっきり伝えるインタビューの練習ができたか。
第三次 ① 本時	1 <u>グループごとに各地域の先生にインタビューする。</u> 2 インタビューを振り返り成果についてまとめる。	○インタビューの仕方の確認。 ・聞きたいことをはっきりと相手に伝えること。 ・メモは中心点を押さえて簡潔に書くこと。 ●インタビューの内容、様子、メモの取り方のよかったところを振り返るよう助言する。	◎インタビューの仕方やメモの取り方の学習を押さえて話したり聞いたりしたか。

(4) 本時の学習 (4 / 4)

① 目標

- ・話し手が話しやすいように、質問の順序や内容を考えてインタビューをする。
- ・大切なことを、簡潔にメモに書き留めながら話を聞く。

② 展開

前時までの既習学習		
<p>・メモやインタビューの仕方を練習する。</p>		
主な学習活動 ◇言葉 — 伝え合い	教師の ○指導 ●支援	◎評価
1 本時の学習のめあてをつかむ。	○前時の学習の想定練習を想起させ、インタビューやメモを取るときに大切なことを確かめる。	◎学習のめあてをもつことができたか。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     インタビューをしよう ～ 聞くときのめあてを決めて尋ねよう～                 </div>		
2 ◇インタビューの内容やめあてについて確かめる。	○インタビューのめあてを確認する。	◎インタビューの仕方やメモの取り方の学習を押しさえ、話したり聞いたりすることができたか。 ◎自分たちの活動の様子を振り返り、感想をもったり成果を確かめたりすることができたか。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     &lt;インタビューの仕方&gt;                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・礼儀正しい態度</li> <li>・聞きたいことをはっきり伝えること</li> <li>・相手の話を正確に聞き取ること</li> <li>・話の大切なこと（中心点）をメモにとること</li> </ul> </div>		
3 <u>インタビューをする。</u> <u>めあてに気をつけながら、聞きたいことを尋ねる。</u>	●一番聞きたいことや質問の構成について確かめるよう話す。	
4 インタビューの様子についてグループで振り返る。	●グループごとにインタビューの様子よかった点の話し合いをするよう話す。	
5 ◇インタビューの成果についてまとめる。	●インタビューやメモの取り方が上手だったグループを紹介し、学習の成果を確かめる。	
次時以降の学習内容		
<p>・東京都調査報告会の準備をする。(社会科の学習)</p>		

(5) 授業実践の成果と課題

**成 果**

3年「教えて会をしよう」

4年「東京都調査報告会の準備をしよう」

<p>単 元 構 成 の 工 夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○できるようにになりたいと考えていることについて、児童の聞きたいことを話題にした。</li> <li>○あの子のようにになりたいと思っている友達に話を聞き、「ぼくもやってみよう」と思う児童が多かったことから、児童の意欲をかき立てる単元構成だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話題や必然性を考慮して、社会科との関連を図った単元構成を考え、児童の「聞きたい・話したい」という意欲を喚起することができた。</li> <li>○インタビュー・メモの仕方の想定練習を取り入れ、実際の調査活動に生かすという単元構成により、活動の目的が明らかになり、意欲も高まった。</li> </ul>
<p>伝 え 合 う 活 動 の 工 夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「教えて会」の前にモデルビデオを見せたことによって、児童は伝え合うイメージがつかめた。また、話すこと・聞くことについての指導事項をビデオから適切に学習できた。</li> <li>○話す・聞く活動を小グループで行ったので、分からないことを気軽に聞き返し尋ねることができた。</li> <li>○説明メモは書く欄を小さくしたので話の中心を押さえたメモになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他校の先生方に実際に会ってインタビューをするという活動を中心にしたので、児童は相手意識や目的意識をはっきりと持つことができた。</li> <li>○インタビューの仕方を学習するのに、モデルビデオは効果的だった。</li> <li>○インタビューをするときのメモは、話の中心を押さえて聞き取ることや話を再構成するのに役立った。</li> </ul>
<p>指 導 ・ 評 価 の 工 夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の中でよい話し方・聞き方の例を児童の活動の中から紹介することによって、児童はモデルビデオを通して学んだ指導事項を実践に結びつけることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループ内で互いのインタビューの様子について振り返ったり、聞いたことについて情報交換したりする中で、自分の話し方・聞き方が適切であったかどうか具体的に分かった。</li> </ul>

**課 題**

- ◎「聞きたいことが分からない」「話したいことがない」といった課題意識をもてない児童への、一人一人に応じた支援の工夫。
- ◎児童の声を録音して聞き直すなど視聴覚機器の一層の活用。

第5学年

- (1) 単元名 伝えよう 私たちの学校を  
(2) 研究主題と単元とのかかわり

互いの思いや意図を効果的に伝え合うためには、相手意識や目的意識をはっきりさせ、児童の「どうしても話し合いたい」という意欲が持続する学習活動が必要である。そのため自分の学校を他校の児童に様々な方法で紹介し、交流し合う「伝えよう 私たちの学校を」という単元を設定した。

本単元では、自分の学校のことを伝えたいという気持ち、他校からも学校紹介の作品が届くという期待感が、児童の表現意欲を高めていった。

また、知らない相手に学校を紹介するためには、自分だったら何を知りたいか、何を知らせたいか、どのような方法で伝えるかを具体的にするための児童同士の十分な話し合いが必要である。しかし、児童の実態調査から「どのように話したらよいかわからない」という技能面の不安を挙げる児童が多かった。そのため、話し合い活動のモデルとなるビデオを作り、「話すこと・聞くこと」の基礎的・基本的な力を培う工夫をした。

- (3) 学習指導計画の概要 (全7時間 本時2/7)

	主な学習活動 ◇言葉 — 伝え合い	教師の ○指導 ●支援	◎評価
第一次 ②	◇他校の友達に、○○小のどんなことを紹介したいかについて話し合う。 ◇話し方・聞き方について話し合う。 ◇グループごとに編集会議をもつ。	○話し合いのモデルとなるビデオを見ながら、よい話し方・聞き方に気付くようにする。 ●モデルとなるビデオを話し合いに生かすよう助言する。	◎話すこと・聞くことの観点を意識しながら、話し合いをしたか。
第二次 ②	◇前時まで話し合ったことをもとに取材し、学校紹介の作品作りに取り組む。	○目的や場に合った話し方ができるようにする。(取材、インタビュー、スピーチなど) ●自分の学校の様子を効果的に伝えるための工夫を促す。	◎相手や目的、場に応じた的確な話し方をしたか。(丁寧な言葉遣いや敬語など) ◎効果的に伝えるための工夫をして作品づくりをしたか。
第三次 ③	◇他校からの学校紹介の作品を見て、話し合う。	●内容面だけでなく、表現面の工夫についても着目させる。	◎話し合いを通し、内容や表現のよさに気付いたか。

(4) 本時の学習 (2 / 7)

- ① 目標 ・どのような話し方や聞き方がよいのか考え、話し合いに生かそうとする。  
 ・友達の考えと自分の考えを比べながら聞き、進んで話し合おうとする。  
 ・自分の考えが聞き手に効果的に伝わるように話す。

② 展開

前時までの学習活動		
・どんな内容で、〇〇小を紹介していくか話し合う。		
主な学習活動 ◇言葉 — 伝え合い	教師の ○指導 ●支援	◎評価
1 めあて、学習の流れを理解する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     どんな話し方や聞き方がよいかを考え、編集会議をしていこう。                 </div>		
2 ◇話し合いのビデオを見て、どんな話し方がよかったか、どんな聞き方がよかったか話し合う。	●話し合いのビデオを用意する。 ○よい話し合いの観点を押さえる。  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">                         〈話すことの観点〉                          理由付け、付け加え、関連させて、例示、提示、速さ、言葉遣い、語調、語気、相手を見て                           〈聞くことの観点〉                          相手を見て、メモ、自分の考えと比較して、うなずき                     </div>	◎よい話し方・聞き方に気付くことができたか。
3 ◇ <u>内容別に分かれたグループごとに、話し合ったことを生かして編集会議を開く。</u>	○観点を意識して紹介したいこと・取材の仕方・まとめの方法などを話し合うようにする。	◎進んで話し合いに参加できたか。
4 今日の話し合いを振り返る。	●観点到照らし合わせて、振り返るよう助言する。	◎話すこと・聞くことの観点を意識しながら、話し合いができたか。
次時以降の学習内容		
・前時まで話し合ったことをもとに取材し、まとめる。 ・他校からの学校紹介の作品を見て、話し合う。		

第6学年

- (1) 単元名 「自然を見つめて～人と自然のかかわりを考えよう～」  
 教材名 「ガラパゴスの自然と生物」「人類はほろびるか」

(2) 研究主題と単元とのかかわり

児童は、日頃から自然や動物について興味をもっている。そこで、本単元を設定すれば、児童が進んで「伝えたい・聞いてみたい」「話してよかった」と思える学習ができると考えた。

まず、教材文を読んで筆者の考えを知り、それをもとに、日本の生物に視点をあてて調べる学習を取り入れた。調べる学習では、自分の調べたいテーマ（生物）を選択することで意欲的に進められ、話し合いにも積極的に参加できると考えた。また、調べたことや考えたことが効果的に話せるように、観点別のワークシートにまとめることにした。

そして、グループや全体で話し合う場を設定した。このことにより、どの児童も自分の考えを話したり、友達の考えを取り入れたたりしながら、自分たちの生活と自然とのかかわり方について考えを深められると考えた。

(3) 学習指導計画の概要（全15時間 本時14/15）

	主な学習活動 ◇言葉 —— 伝え合い	教師の ○指導 ●支援	◎評価
第一次 ②	・絶滅動物などについて話し合い単元のめあてを立てる。 ◇「ガラパゴスの自然と生物」の初発の感想を書き学習計画を立てる。	●児童が調べたトキの赤ちゃんの話題を提示する。	◎貴重な生物について興味を抱き、学習の見通しをもったか。
第二次 ③	◇ <u>ガラパゴスの自然と生物の筆者の考えを読み取り話し合う。</u>	○キーワードを押さえることを確認する。 ●短い言葉でまとめるとよいことを助言する。	◎要旨を捉え、自分の考えをまとめたか。 ◎自分の考えを進んで話し、友達の考えも意欲的に取り入れ、考えを深めたか。
第三次 ④	◇「人類はほろびるか」を読み、 <u>動物と環境、人間と環境の関係について話し合い、自分の考えをもつ。</u>	●自分がまとめたものをもとに要旨や考えを話し合っていくよう助言する。	◎根拠を明らかにして話したか。 ◎考えが深まったことを確認したか。
第四次 ⑤	・人と自然についてテーマごとに調べる。 ◇ <u>自分と自然とのかかわりについて話し合い自分の考えを深める。</u>	●図書館、インターネットなどの利用を促す。 ●調べたことをもとに考えを話すよう助言する。	◎根拠を明らかにして話したか。 ◎考えが深まったことを確認したか。



(4) 本時の学習 (14/15)

- ① 目標 ・友達の考えと自分の考えをくらべながら、進んで話し合おうとする。  
 ・調べたことをもとに根拠を明らかにしながら、自分の考えを話す。  
 ・話し合いを通して、自分の考えを広げたり深めたりする。

② 展開

主な学習活動 ◇言葉 —— 伝え合い	教師の○指導 ●支援	◎評価
1 本時のめあて、学習の流れを理解する。	○自分の考えを深めるための話し合いであることを確認する。	
「私たちは、自然とどのようにかかわっていくとよいか」について話し合おう。		
2 ◇テーマごとのグループで話し合う。 <グループ> ・トキ ・メダカ ・ホタル ・シカ ・オオサンショウウオ ・屋久島 ・絶滅しそうな動物	●事前に一人一人のテーマを把握しておく。(支援計画表参照) ○話す時は観点別のワークシートをもとに自分の考えを述べていくようにする。 ○聞く時は参考になることを観点別のワークシートに付け足しをしていくようにする。	◎観点別のワークシートをもとに理由をつけて自分の考えを話したか。
3 ◇全体で話し合う。	●グループの話し合いをもとに自分の考えと同じ点、関連している点、違う点を話し合っていくことを助言する。	◎友達の考えと比べながら話し合えたか。
4 ◇今日の話し合いを振り返る。	●話し合いをし、思ったこと・考えたこと、友達の意見についての感想などをまとめるよう促す。	◎自分の考えを振り返り、友達への意見や感想をもったか。

\*資料<前時までの児童の考えと支援計画(一部)>

名前	これからできること(自分の考え)	●支援
ホタル A	・壊した環境を整え直すことが大事。長い年月が必要だがなるべくゴミを川などに捨てることをしない。きれいな川にしかホタルは住まないののでそっとしておきたい。	●友達の考えをよく聞いてより具体的に深く考えられるよう助言する。
メダカ B	・生活用水は必ず出てしまうもの。だけど減らそうと思えば減らせる。お米のとぎ汁、洗濯の水などみんながやっていたら大きい。歯磨きや食器を洗ったりすると洗剤でメダカが死んでしまう。	●自信をもち、はっきりと理由が説明できるように励ます。



(5) 授業実践の成果と課題

成果

5年「伝えよう 私たちの学校を」

6年「自然を見つめて ～人と自然とのかかわりを考えよう～」

単元構成の工夫

○学校間の交流が図れる単元構成であるため、「自分の地域や学校のことを教えてあげたい」という気持ちや、「相手の学校からも紹介の作品が届く」という期待感が膨らみ、児童が意欲的に取り組むことができた。

○導入の段階で、話題になっているトキの問題について話し合う時間を設けた。児童の関心の高い話題であったので、人と自然のかかわりについて考えるよいきっかけとなった。  
○日本の生物に視点を当て調べる学習を取り入れたことで児童一人一人が積極的に話し合いに参加することができた。

伝え合う活動の工夫

○「話すこと・聞くこと」の基礎的・基本的な力を培うために、「モデル」として自作のビデオを使用したことは、有効であった。  
○学級内の話し合い、グループの話し合い、取材相手へのインタビュー、他校への紹介…というように、多様な伝え合いの場が設定できる単元となっている。そのため、相手や場を考えた話し方を意識させることができた。

○全体で話し合う場を設定したことによって、他の動物についても、同じような問題が起きている事実を知ることができ、考えを深めることができた。  
○調べたことや自分の考えがワークシートにまとめてあったので、話し方がよくわからない児童もスムーズに話すことができた。また、ワークシートの項目は、そのまま話し合いの観点にもなり、互いの考えを比較しやすく、焦点を絞って話し合うことができた。

指導・評価の工夫

○ビデオを見たあと、どんな話し方・聞き方がよかったかを話し合った。そこで出された項目が、そのまま児童の話し合いのめあてとなり、また、自己評価の際の観点ともなった。

○児童一人一人の考えを事前に把握し、支援計画を立てたことで、話し合いのなかで適切な助言をすることができた。

課題

- ◎「どうしても話し合いたい」という意欲をさらに引き出す学習材や単元構成の工夫。
- ◎自分の考えをもって話し合いに臨むための「話すためのワークシート」の工夫。
- ◎学習形態や、つけたい力に応じた支援計画の工夫。
- ◎次の学習への意欲やめあてにつながるような自己評価・相互評価の工夫。

## IV 研究の成果と課題

### 1 成果

#### (1) 単元構成の工夫

楽しい活動や、興味・関心のある活動の中では、児童はじっくりと考えを深め、のびのびと話をしたり、友達の考えに耳を傾けたりすることができる。そのような活動を行うことが可能な教材を開発したことで、児童の進んで伝え合おうとする意欲を引き出すことができた。ゲーム的な要素のあるもの、身近な話題や他教科と関連のあるもの、自分自身で調べたものを単元として構成したときには、児童の意欲を喚起することができた。

#### (2) 伝え合う活動の工夫

グループでの伝え合う活動の場を設定し、グループの構成人数を活動場面により変化させた。これにより児童は、多様な伝え合う活動の場を経験することができた。その中で、友達の考えを知ったり、相手から返事が届いたりすることもあり、伝え合う喜びを感じることができた。

また、「話すこと・聞くこと」の基本的な力を養うために、モデルとしての自作ビデオやワークシートを活用した。これにより児童は、話したり、聞いたりするときの大切な点に気が付き、それを土台にして、自信をもって伝え合う活動を行った。

#### (3) 指導と評価の工夫

児童一人一人の考えを事前に把握し、支援計画を立てた。話し合いの中で時と場に合った適切な支援を行うために、支援計画は欠かすことのできない有効なものであった。

また、評価カードを活用したことにより、児童はお互いのよさを認め、励まし合い、友達とかかわることの楽しさを感じ、意欲的に活動することができた。

### 2 課題

- 「話すこと・聞くこと」の基礎・基本の力を身に付ける学習を積み重ねていくことと共に、児童が「どうしても話をしたい」という強い意欲をもてる教材開発の研究を深める。
- よりよい伝え合う活動のために、視聴覚機器の有効的な利用方法を研究する。
- 単元全体を見通したワークシートの作成方法や使い方について、さらに追求していく。